バイオマス利活用フロンティア推進事業の継続

2006年5月に、ユニーの進める「バイオマスプラスチック製容器使用」への取り組みが評価され、農林水産省から「バイオマス利活用フロンティア推進事業」として認定されました。この事業は、バイオマスプラスチックを広く一般に認識していただき、利用の促進を主旨としてさらなる普及に努めるものです。今年度は「バイオマスプラスチック容器の回収と再生利用」を課題として取り組んできましたが再生品として定規などの製品化に成功しました。「バイオマス利活用フロンテイア推進事業」は2009年3月をもって終了しましたが、ユニーは今後も学識経験者、メーカー、消費者代表、物流関係者、商品担当者と「検討委員会」を定期的に開催しバイオマス容器の積極的な採用、拡充、再生利用に努めます。

バイオマスプラスチックの普及活動

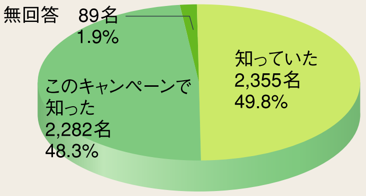
バイオマスプラスチックの普及事業として各地の環境展で啓蒙活動を実施しています。環境パネルの展示とあわせてバイオマスプラスチック製容器の認知向上のためのアンケートを実施しました。アンケート実施数も昨年に比べて大幅にアップし、その結果から認知されているお客様は確実に増えていることがわかりました。

アンケートの結果

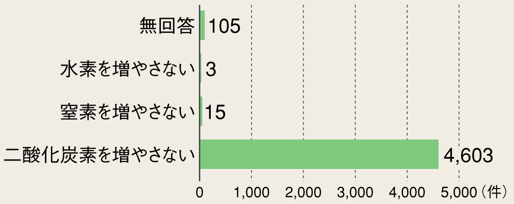
※このアンケートは、卵きらら10個入り・カットフルーツを対象にしたものです。

2009年1月2月に、18県下のアピタ・ピアゴのお客様4,726名を対象に実施した、はがきの応募によるアンケート調査の結果です。

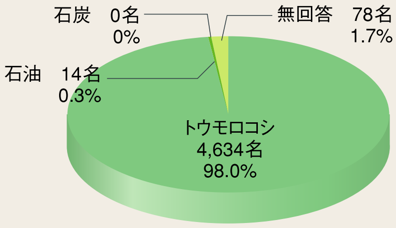
Q 植物を原料として作られるバイオマス容器を知っていましたか?



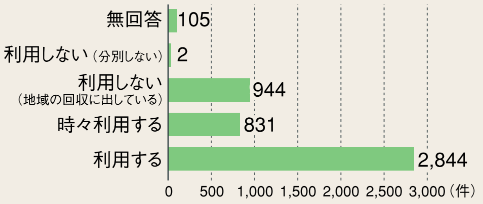
Q バイオマスプラスチックはどうして環境に良いのでしょう?



Q バイオマスプラスチックは何でできていますか?



Q ご家庭で出たリサイクルできるゴミ（牛乳パック・トレイ・アルミ缶・スチール缶・ビン・ペットボトル）はリサイクルBOXを利用しますか?



お客様からのご意見・ご感想

バイオマスプラスチック用のトウモロコシ栽培による森林伐採がなければ素晴らしいと思います。

2年以上前からこのキャンペーンを知っていますが、商品の種類が増えていない気がする（卵とパイナップルくらいしか見たことが無い）。

卵パックはいつもどうにかならないかなぁと思っていたので、植物を原料にして自然にかえるのはすごいと思いました。素晴らしい環境への取り組みだと感じました。お豆腐の容器もなるといいな。

以前はきららの空容器はプラスチックごみに出していましたが、今はアピタのきらら専用のリサイクルボックスを利用しています。

三県一市グリーンキャンペーン

2002年より愛知県・三重県・岐阜県と名古屋市と共催で、「環境にやさしいお買い物」を推進するキャンペーンに参加しています。またユニー独自の取り組みとして、バイオマスプラスチック容器に貼付してあるシールをはがきに貼って送っていただいたお客様にプレゼントを進呈する啓蒙キャンペーンを実施いたしました。

今後の課題と展開

現在容器包装に使用されているバイオマスプラスチックは、トウモロコシのデンプンを原料にしたポリ乳酸（PLA）です。トウモロコシは食糧や家畜の飼料に使われるほか、バイオマスエネルギーとして使われるバイオエタノールの原料にもなります。地球規模で食糧不足や石油の高騰などが心配されているなかで、これらとの競合問題をどうするのかが問題です。特に「食糧として価値のあるものを容器包装にしてよいのか」という声も聞かれます。そういったことから、日本国内では稲わらや廃木材などセルロースを原料にしたバイオマスプラスチックや、海外からはサトウキビの廃液（砂糖を絞ったカス）を原料にしたものが開発され実用化されようとしています。このようなバイオマスプラスチックを使ったサスティナブルな容器包装について、今後も研究者やメーカーと一緒に開発、使用を進めていきます。